部会だより

コロイドおよび界面化学部会

関西支部の活動状況

はじめに

コロイドおよび界面化学部会関西支部では，毎年夏に基礎から学べる「関西界面科学セミナー」を，冬には企業の研究者・技術者を中心に幅広い参加者を対象として応用を学ぶ「コロイド・界面実践講座」を開催しています。

関西界面科学セミナーは，招待講演と学生・若手研究者によるポスター発表で構成されています。今年は，7 月 25 日(土)に甲南大学岡本キャンパスにて，「第 44 回関西界面科学セミナー：ソフト界面・バイオ界面の科学：しなやかな界面の魅力に迫る」を開催しました。

第 44 回 関西界面科学セミナー

柔軟性と高度な機能性を併せ持つ「ソフト界面・バイオ界面」の制御は，学術，産業の両面で大きな注目を集めています。本セミナーでは，超分子や高分子材料，脂質膜，食品加工に至る多様な分野から最前線の研究者を招待し，「しなやかな界面」がもつ魅力についてご講演いただきました。講演者および演題は以下のとおりです。

1. 赤松允顕先生（京都大学）
「水界面で機能する刺激応答性超分子材料の創製」
2. 宮田隆志先生（関西大学）
「動く高分子材料のコロイド・界面化学：動的構造が生み出す応答機能」
3. 飯村兼一先生（宇都宮大学）
「界面分子膜のモデル系としての機能」
4. 松木　均先生（徳島大学）
「脂質膜の環境適応：熱力学的相図からみる膜状態と分子構造」
5. 小谷野真梨先生（花王株式会社）
「界面制御によるサステナブルな食品加工技術 ～W/O/W エマルションの徐放技術と豆腐の凝固メカニズム解析～」
6. 湊元幹大先生（三重大学）
「細胞膜モデルの構成研究：脂質膜調製を中心に」

熱力学的な基礎研究から，環境適応・刺激応答といったダイナミックな機能創成，さらにはサステナブルな実用技術にいたるまで，ソフト界面・バイオ界面が織りなす科学の可能性について多彩なお話をいただき，参加者との間で活発な議論が交わされました。

講演終了後，学生・若手研究者による 36 件のポスター発表が行われ，90 分の発表時間を超えるほど熱心な質疑応答が続いていました。支部委員だけでなく講師の先生方ならびに一般参加の企業の方に審査を行っていただきました。厳正な審査の結果，小泉奈津海さん（関西大）「温度または光刺激により液液相分離を誘起するオリゴエチレングリコール系ポリマーの設計とその応用」，阪尾麻衣さん（甲南大）「電気伝導率測定による微粒子–空気–液体分散系における物質の帰属」，出水大稀さん（鳥取大・京大生存研）「親水基構造の異なる両親媒性ロフィンダイマーの分子集合体形成と光応答挙動の解析」，柳下拓斗さん（大阪工大）「可食性粒子安定化ガスマーブル：生成条件と構造特性」，石山遥希さん（甲南大）「Implicit-explicit ハイブリッドモデルを用いたアルカリ金属イオンおよびハロゲン化物イオンの水和エンタルピーと水和化学ポテンシャル」，門野貴拓さん（大阪工大）「pH および磁場応答性粒子安定化ガスマーブルの構築」，木村菜津樹さん（奈良女子大）「小角散乱とレオロジー解析による多分岐鎖型アミノ酸―糖ハイブリッド界面活性剤のラメラドメイン形成」に優秀ポスター賞が授与されました。


講演の様子


ポスター発表の様子

おわりに

関西支部のもう 1 つの重要なイベントである「コロイド・界面実践講座」は，2027 年 1 月に開催を予定しております。詳細が決まり次第，部会ウェブサイト等でお知らせいたしますので，ぜひ奮ってご参加下さい。

関西支部では，コロイド・界面化学における「基礎から応用まで」を広く深く学べる場を提供できるよう，今後も魅力的な企画を心がけて運営してまいります。引き続き，当支部の活動への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

〔2026 年度 関西支部長
村上　良（甲南大学）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan